

州ニ
蘇マッコー

コンピュータ連動 検反機を6台導入

裁断前に生地不良を解決

中高級婦人服生産グループ、マッコーニホールディングス（東京、會藝文社長）の主力生産拠点である中国の蘇州マッコーニは今年度、検反機能の強化に乗り出している。

縫製ラインのうち3ライン分のスペースを検反センターに充当し、コンピュータ連動型による特殊仕様の検反機6台を導入する。稼働は4月から。

同社は、欧米日のアップシーズン婦人服で布帛を中心としたトータルアイテムを製造している。昨年からは欧州のアップシーズンブランドのサンプル生産から本生産までの業務を強化。特にH&Mのアップシーズン新ブランド「COSS」の全サンプルを開発・生産するCOSS専用の

サンプルセンターを昨年夏に開設した。

COSS向けは昨年だけでも70万着を生産。今年度は120万着の生産依頼がすでに来ている。COSS生産が軌道に乗り、H&Mからはアップシーズンの新ブランド「&（アンド）アザーストリー」についてもサンプル開発と本生産30万着のオーダーが入っており、この2ブランドだけでも150万着を生産する。

このため蘇州マッコーニ本社工場と、八木通商との合弁工場、蘇州ヤギマッコーニの2工場に加え、日系縫製工場など3工場で委託生産する。

検反センターの設置は、COSSとアザーストリーの2つ

受けて、生地メーカーが交換などの責任を負う分、蘇州マッコーニ側が縫製上のテクニクで解決できる分を判断し、使える生地を裁断工程に回す。裁断後の不良発生率は3%未満で、「顧客が十分満足できるレベル」という。裁断したパーツ前に生地が安定しているので、縫製効率が高まる。

同社は「生地があいまいな評価のまま裁断と縫製の工程に行き、これによって不良が発生するケースが多い。トータルコストと納期という側面ではこの方式がベスト」（會社長）とし、他のユーザーにも紹介する。